

Vol. 04

まなび
な
い
た
え
の



Vol.4 テーマ

答えのない学び

* 結 晶 母 *

テラルネ

P04. テラ・ルネッサンスが考える「現場からの学び」

P06. 支援活動 ー支援することの学びー

- P06-P09 事業担当者・三者対談
小川真吾(アフリカ事業担当) × 江角泰(アジア事業担当) × 吉田真衣(大槌復興刺し子プロジェクト担当)
- P10-P11 世界の現場からスタッフの声、政策提言活動コラム

P12. 啓発・講演活動 ー伝えることの学びー

- P12-P15 鬼丸昌也・インタビュー
- P16-P17 講演会主催者・参加者の声

P18. 啓発・人財育成 ー成長することの学びー

- P18-P21 栗田佳典・インタビュー
- P22-P23 インターンシップ卒業生・インターンシップを見守る声

P24. 大槌復興刺し子プロジェクトからのお知らせ

P26. 協賛広告



アフリカでは、答えのない質問をすることがあります。
ある長老が子どもたちにこんな質問を投げかけました。

鳥が川を越えて、向こう岸にたどり着きました。
それを見ていたあなたも川を越えて向こう岸に渡ることができました。
なぜでしょうか？

子どもたちは、
泳ぎ方を知っていたから！、橋を作ることができたから！
自分の目線は鳥とともに、向こう岸に渡っているから！
などと口々に答えました。

答えのない質問によって、子どもたちは
自由な発想と、想像力を養っていきます。

長老は、言いました。

答えが一つでないことを知り、
子どもたちは、多様な考え方を尊重する大切さを学んでいく。

そして、常に変化し続けている複雑な社会の出来事を
一つの答えでまとめる事などできない。

だから、私たちの「学び」には、答えはないのだと。

今回の結晶母では、私たちが国内外のそれぞれの現場で、
経験してきた「答えのない学び」を皆さんと共有したいと思います。

テラ・ルネッサンスが考える 現場からの学び

文／小川真吾 ●ウガンダ事務所で洋裁の授業に取り組む女性の様子



来年、設立15周年を迎えるテラ・ルネッサンス。カンボジアの地雷除去支援から始まった活動は、今、カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴ民主共和国、ブルンジの海外5ヶ国に広がり、国内では講演やイベントを通じた啓発活動、若者の人財育成、政策提言、そして、岩手県での復興支援活動（大槌復興刺し子プロジェクト）を行うまでに成長しました。

現在、総勢46名の職員と、14名のインターン生がそれぞれの現場で日々活動に取り組んでいますが、設立からの14年間、多くの人との出会いがあり、その中で様々な学びと気づきがありました。

今、振り返るとテラ・ルネッサンスの歩みは、支援者の方々や、現場の人々から学び、気づかされ、それを実際の活動に活かすという連続だったように思います。

プローチを採用するようになりました。

そして、支援を始める時に、対象者や対象地域に「無いもの」を満たす視点だけではなく、それぞれの地域や一人ひとりに内在する「あるもの」に着目することが重要だと考えるようになりました。

この14年間の海外の現場での学びは、私たちに「ひとり一人に未来をつくる力がある」というテラ・ルネッサンスの活動理念を再認識させてくれたようにも思います。

そして、海外での学びと気づきは、国内での活動にも活かされています。震災後の復興支援活動では、対象地域（岩手県、大槌町）にある伝統や文化、魅力に着目し（それを学び）、コミュニティに今も残る暖かな関係性に価値を感じながら、大槌町の人々に誇りに思ってもらえるようなコミュニティビジネスの立ち上げを目指しています。

京都事務局では、インターン生やボランティアの方々に対し、どのように接すれば、それぞれの持っている能力や力を発揮していくだけのかを真剣に考え、試行錯誤を続けています。

ウガンダでは、心身ともに傷ついた元子ども兵たちが、現地公務員と変わらないほどの収入を得て、家族だけでなく地域社会に貢献していく変化を見ていて、私たちは、「レジリエンス」を大切にするという支援ア

体の方々には、どのような提案をすれば、それぞの強みを活かした、価値ある「協働」を創ることができるのでを常に考えていました。

15周年を前に、テラ・ルネッサンスらしい「現場での学び」とは何かについて考えてみました。

現場では、様々な要素が複雑に絡み合い、想定していた理論が当てはまらないという現実に直面することが多々あります。合理的な施策が通用しないこともあります。常に変化する現場のダイナミズムに圧倒されながら、その都度、一つ一つの最適解を模索してきたように思います。

それぞれの社会や一人ひとりに内在する可能性や力も実際に多様で、測り切れるものではありませんし、それが置かれた環境や周囲との関係性の中で、その力や可能性も常に変化していくものです。

このような現場の多様性と動的な特性を鑑みると、「現場からの学びとは、『答のない学び』だったのではないか」という答え（結論）に達しました。

つまり、私たちの「学び」というのは無限に続き、今、持っている答え（理論）を常に、スクランプ＆ビルト（解体しては、構築し直す）作業を続けていくことが大切なことです。

支援することの学び

世界と日本それぞれの現場で支援活動をしてきた江角（アジア）、小川（アフリカ）、吉田（岩手）の3名がこれまでの活動を振り返り、社会復帰プロジェクトや現地の人たちとの交流を通して感じた、支援することの学びについて伺いました。

その人にしかできない役割とは何かを考え続けること

小川 江角さんは8年間、カンボジアに駐在してきたわけですが、まず、江角さん自身がこれまで現場から学んだことについて話してもらえますか？

江角 支援対象者であっても、現地職員であっても、「その人にしかできない役割とは何かを考え続けること」の大切さです。例えば、2009年に初めて女性の地雷被害者2名を職員として雇用したのですが、2人も小学生も卒業しておらず、当初は、本当に正しい選択だったのかと悩んだこともあります。しかし、それぞれにできる役割をスタッフ全員で考えていく、今では2人とも重要な役割を果たしてくれています。

小川 彼女たちにはどんな仕事を担っています



相手の立場を理解するというチカラ

江角 一つは、支援を受ける地雷被害者たちが自立への意識を持つようになったことです。ラウ自身が地雷被害者でありながら、自らの努力で自立してきた経験を持ってい

るので、そんな彼女からの指導を受ける人たちも、自分にもできるという気持ちが芽生えたのかもしれません。そして、ラウは自分自身の経験から、私たちに色々と提案してくれて、それが事業全体に活かされていることもあります。

小川 例えば、どんなことですか？

江角 洋裁の技術訓練をする時、通常は、村々に住む対象者を事務所のある街中に集めて、集中して訓練を実施するほうが効率的なのですが、ラウは「各村へ出張ベースで短期滞在して指導するほうがいい」と提案してきました。それで、村でいろいろと話を聞いていくと、多くの対象者にとって自分の村を離れて、生活するというのは少なからずの抵抗があるということがわかりました。特に、地雷被害者や女性たちにとっては、想像以上に心理的な負担にもなることがわかつたのです。

小川 確かに事業をする側からすると、効率性を重視するし、技術力向上という成果のためには、対象者の生活環境が一時的に

もらっているのですか？

江角 ラウという女性職員には、村で洋裁技術を教えるという仕事を担つてもらっています。彼女は洋裁技術を持っていたのですが、指導経験がなく、この仕事を担つてほしいと話した時は不安そうでした。しかし、それ以降、彼女は、休みの日も自発的に洋裁技術のスキルアップに努めて、指導経験のある人から、「どうしたら良い技術指導ができるのか？」と聞いて回るようになりました。そして、今では彼女から技術を習得した地雷被害者たちが自分で収入を得られるようになっています。

小川 そもそも、なぜ、女性の地雷被害者を雇用しようと思ったのですか？

江角 当時、職員が全員、男性だけで女性の地雷被害者らへの支援をする際に、女性スタッフの存在が重要ではないか、と考えていました。そして、当事者の社会的、心理的な状況をより深く理解するためにも、同じ経験をしてきた地雷被害者の成功体験が重要なのではないかと思い、彼女らを雇用しました。

小川 その結果、事業全体にとってどんな効果があつたと思いますか？

変わることも、仕方ないことだと考えることがありますよね。

江角 そうなんです。私も村人の気持ちを想像することができますが、あらゆる状況を加味して、総合的に相手の立場を理解するということは、同じ境遇にいたラウでなければわからなかつたことだと思います。また、ラウより技術力の高い指導員候補は他にもいましたが、電気も水道もない不便な村に滞在したいという人は、おそらくなかなかでしようし、このプロジェクトの指導員はラウにしかできない役割だと思っています。

小川 現地の人たち、それぞれにできる役割を考え続けていくことが大切だったというのが江角さんの現場学びの一つだったということですね。

では、吉田さん、大槌町の人たちや刺子さんと接してきて、吉田さん自身はどんな学びがありましたか？

丁寧に関係性（つながり）を作ること

吉田 いろいろな学びがありました。一つ挙げるとすると、「関係性（つながり）を丁寧に作ること」の大切さです。それは人ととの関係性もそうですし、モノ（刺し子商品）との関係性もそうです。



(右・中) カンボジア事務所、洋裁技術指導員のサムリット・ラウと受益者の人たち。彼女自身も地雷の被害者であるため、受益者の人たちの心に、やさしく寄り添ってくれています。

(左) 大槌町で、刺し子に取り組んでいた大槌刺し子さん。商品の材料を受け取り、嬉しそうな笑顔を見せてくれました。

吉田 当たり前のことのようでも、難しいことですよね。きっと、現地の人たちとともに考えるというのは、当然でありながら、現実の援助の世界では、N G Oだけではなく、教会、企業などがそれぞれの利害関係を

することはできません。だからこそ、現地で生まれ育ち、その土地の自然や歴史、文化、物事の進め方を知っている現地の人とともに考えることが、とても大事なことだと何度も気付かされました。

吉田 一方で、対象地域内での社会関係も含めて、それぞれの現場にある資源というものは本当に多様ですよね。しかも、時間とともに常に変化していくものだと思います。そんな中で、いつ、どこで、誰からの意見を、どれだけ一緒に考えればいいのか、といふ問いには、決まった正解はないよう思います。まさに、答えのない学びが続くのだと感じます。

小川 私もそう思います。通常、プロジェクトを開始する時に、関係者（ステークホルダー）分析というものをして、それぞれがプロジェクトに与える影響度や、どれくらい一緒にプロジェクトについて考えてもらいうかを把握しておきます。しかし、実際には、状況に応じて、その関与度や影響度が変わることもありますし、柔軟に対応しなければならないこともあります。

吉田 当たり前のことのようでも、難しいことですよね。きっと、現地の人たちとともに考えるというのは、当然でありながら、現実の援助の世界では、N G Oだけではなく、教会、企業などがそれぞれの利害関係を

文／小川真吾
「テーブ起し」／（インターンシップ）
進士巧・大倉梨花・辻本真貴子・北村真帆

持つて、関わっていますし、そういうʌステークホルダーとも共に考えていく必要もあるし…。

小川 包摂性（インクルーシブネス）が大切だと言いますが、こうしたステークホルダーの中でも、最終的に援助の恩恵を受けるべき現地の人々（エンドユーザー）の声をどこまで包摂できるかが、より大事になつてくると思います。

吉田 現場では、本当に、様々な側面を考えながら、その時々で最適な判断をしていかないといけないですよね。

小川 だからこそ、私たちは、どんなに現場に長くいても常に学び続けるという視点が大切なのだと思います。現場からの学びというのは、生きた学び、つまり、静止しているものではなく、一つの答えが、次の問いへと続き、それが循環しているようなものだと思うのです。

これからも、テラ・ルネッサンスに関わる様々な人たちから学び、それをよりよい現場での実践に活かしていきたいですね。

吉田 なるほど。たしかに高価なプレゼントより、手間暇かけて丁寧に作ってくれた贈り物の方が心に残つていただりますよね。この丁寧さんは、どこからきているんでしょうかね？

吉田 多分、大槌町の人たちにとつては当たり前のことだと思います。でも、言い換えれば、これが大槌町に昔からある伝統的な価値だと感じています。家族や友人のことを気にかけて時間も忘れて話し込んだり、食事も外食じゃなくて、漁師さんから旬の魚を分けてもらつて、手間暇かけて料理したりと、生活のすべてが「丁寧なつ

覚です。

小川 なるほど。たしかに高価なプレゼントより、手間暇かけて丁寧に作ってくれた贈り物の方が心に残つていただりますよね。この丁寧さんは、どこからきているんでしょうかね？

吉田 多分、大槌町の人たちにとつては当たり前のことだと思います。でも、言い換えれば、これが大槌町に昔からある伝統的な価値だと感じています。家族や友人のことを気にかけて時間も忘れて話し込んだり、食事も外食じゃなくて、漁師さんから旬の魚を分けてもらつて、手間暇かけて料理したりと、生活のすべてが「丁寧なつ

覚です。

吉田 なるほど。たしかに高価なプレゼントより、手間暇かけて丁寧に作ってくれた贈り物の方が心に残つていただりますよね。この丁寧さんは、どこからきているんでしょうかね？

吉田 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入っていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。いや困った時は助け合うという、都会では忘れられてしまつたような暖かい「つながり」を感じます。私も実際、刺し子さんや近所の方々から四季折々の差し入れを頂いて、私の方がいつも助けられていると感じることがしばしばです。

小川 本当に暖かい人間関係が残つているのですね。そういう関係性がモノづくりにも反映されているということでしょうか？

吉田 そうなんです。刺し子さんたちは、いつも製品を使つてくれる人のことを想像しながら、一つ一つ丁寧に刺し子を縫つてくれています。単なる商材ではなくて、大事な人に渡す贈り物を作つているような感覚です。

小川 なるほど。そういう関係性がモノづくりにも反映しているということでしょうか？

吉田 そうなんです。刺し子さんたちは、いつも製品を使つてくれる人のことを想像しながら、一つ一つ丁寧に刺し子を縫つてくれています。単なる商材ではなくて、大事な人に渡す贈り物を作つているような感覚です。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな中で、小川さん自身は、現地の人たちからどんなことを学びましたか？

小川 私もたくさんあるのですが、一つは、「現地の人たちと、ともに考えること」の大

切さを、アフリカの人たちから教えてもらつたように思います。

よく、テラ・ルネッサンスでは、「対象地域に内在している多様な資源を活かす視点を大事にしよう」と言っていますが、それらを外から入つていく私たちがすべて把握

ながり」に支えられていると感じるのです。自然の流れに逆らわずに、その時々の関係性（つながり）を大切にする昔ながらの生き方のようなものが、丁寧なモノづくりにも反映されているのかもしれませんね。

吉田 そうですね。アフリカの人たちも似たような感覚があるのでないですか？

小川 たしかに、アフリカの村々でも人と人、人と自然の関係性を大切にする知恵や伝統は根強く残っています。近代の中でも紛争や格差の問題など数え切れないほどの課題を抱えていますが、アフリカの人たちにとって、周囲との関係性（つながり）は、様々なリスクに適応する上でも、とても大事なことだと感じます。

吉田 そんな

テラ・ルネッサンスが、政策提言に取り組む意味。

文／榎本珠良（テラ・ルネッサンス ポリシー・アドバイザー）

世界の武力紛争で実際に使われて大きな被害をもたらしているのは、核兵器などの大量破壊兵器ではなく、戦車や自動小銃などの通常兵器です。私は2015年8月より、この通常兵器の軍縮・軍備管理の政策アドバイザーとして、テラ・ルネッサンスで活動しています。

「通常兵器の軍縮・軍備管理」の政策というと、みなさんの日々の生活やテラ・ルネッサンスの支援の現場から遠く離れたことのように思えるかもしれません。でも、国連などでは、元兵士の社会復帰や和解のための支援は、「通常兵器の軍縮・軍備管理」としても議論されています。なぜなら、通常兵器が不正に使われて人々の命や尊厳を奪い生活を破壊する事態を防ぐためには、紛争を予防して地域の人々の和解を促進することや、各国で国内に出回る武器を規制するための法制度を整えること、国際会議で軍縮・軍備管理の交渉を進めることなど、多くのレベルでの取り組みを同時進行で行う必要があるからです。

テラ・ルネッサンスが、現場支援だけでなく政策提言にも取り組む意味は、ここにあります。つまり、NGOとしても、現場で支援を行うと同時に、現場の状況をもたらしている国レベルの課題を取り組んだり、国際会議で合意される文書の中身に影響を与えていたりする必要があるからです。

もちろん、通常兵器の軍縮・軍備管理の分野で、国際会議の合意文書の細かい文言について具体的に提言をするためには、専門性が必要です。さらに、国際レベルの問題を短時間で劇的に変えることはできませんので、長年に渡る地道な取り組みが必要です。これまでテラ・ルネッサンスがウガンダなどの現場で示してきた、「専門性を保ちながら根気強く活動を続ける」姿勢は、政策提言の分野でも活かすことができると期待しています。

榎本 珠良

えのもとたまら ● 国際NGOで12年間人道・軍備管理の政策担当として勤務した後、2015年8月よりテラ・ルネッサンスのポリシー・アドバイザー。明治大学研究・知財戦略機構共同研究員（国際武器移転史研究所）、国際小型武器行動ネットワーク（IANSA）個人メンバーなども兼務。リーズ大学修士（開発学）、リーズ大学修士（紛争・開発・安全保障研究）、東京大学博士（国際貢献）。



(1) 2012年7月、武器貿易条約(ATT)交渉会議。NGOは会議場前の広場に墓地の模型を作ってアピールした。銃犯罪により息子アリストーを失ったデイビッド・グリマソン(写真中央)も、ATTの文言を強化すべきと訴えた。

(2) 2012年7月、ATT交渉会議の会場内でのNGOキャンペーン活動

(3) 2013年3月、ATT最終交渉会議にて、条約草案を分析する NGO関係者

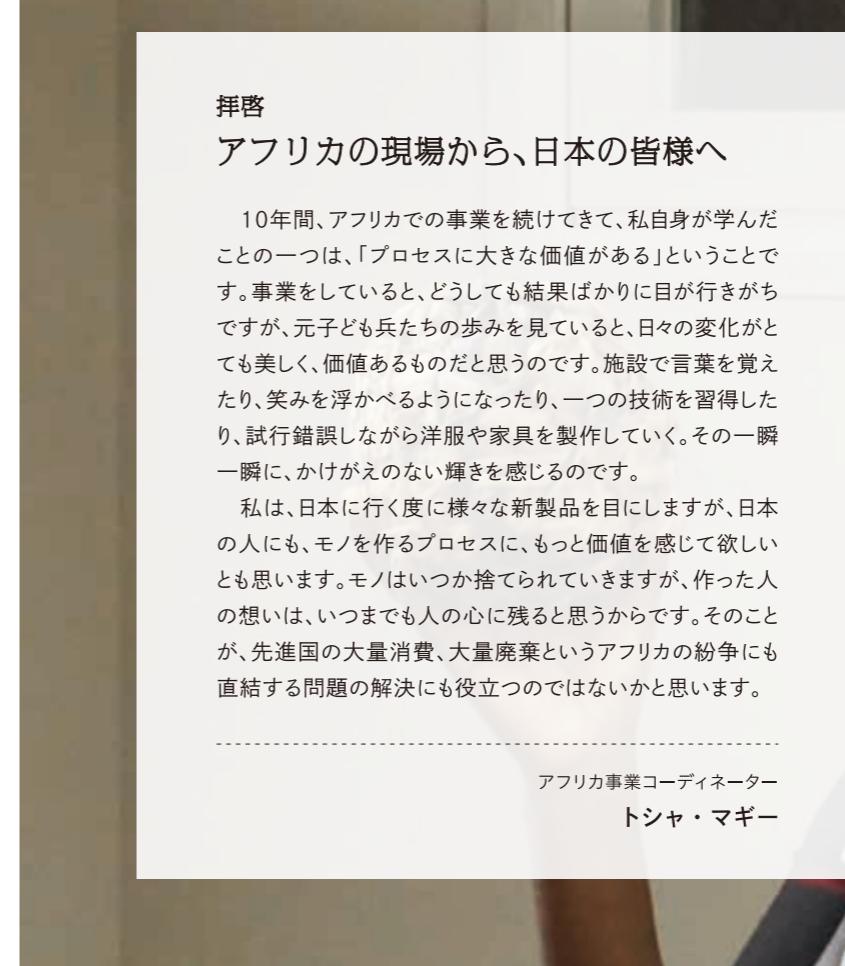


拝啓

アジアの現場から、日本の皆様へ

私は、村人たちが彼らの生活状況や行動を変化させていることを、とても嬉しく思います。村人たちはお互いに協力して清掃活動をし、民主的に物事を決定し、お互いに愛し合い、村の発展計画をつくっているのです。これは、村人たちが以前の状態から、自身を変化させたことから起きた変化です。自分たちで村の発展計画を話し合い、清掃活動のスケジュールを決め、家庭菜園を始めていること。お互いに協力してポンプの管理を実施している様子、毎月の自治会の参加者がどんどん増えている状況を見て、それぞれ自分自身を変えていく力が、世界平和の実現のために重要なことを学びました。

カンボジア事務所プロジェクト・コーディネーター
ケン・チャイ



拝啓

アフリカの現場から、日本の皆様へ

10年間、アフリカでの事業を続けてきて、私自身が学んだことの一つは、「プロセスに大きな価値がある」ということです。事業をしていると、どうしても結果ばかりに目が行きがちですが、元子ども兵たちの歩みを見ていると、日々の変化がとても美しく、価値あるものだと思うのです。施設で言葉を覚えたり、笑みを浮かべるようになったり、一つの技術を習得したり、試行錯誤しながら洋服や家具を製作していく。その一瞬一瞬に、かけがえのない輝きを感じます。

私は、日本に行く度に様々な新製品を目にしますが、日本の人们にも、モノを作るプロセスに、もっと価値を感じて欲しいとも思います。モノはいつか捨てられていくが、作った人の想いは、いつまでも人の心に残ると思うからです。そのことが、先進国の大量消費、大量廃棄というアフリカの紛争にも直結する問題の解決にも役立つのではないかと思います。

アフリカ事業コーディネーター
トシャ・マギー



鬼丸 昌也

おにまる まさや ● 高校在学中にアリヤラトネ博士(スリランカの農村開発指導者)と出逢い「すべての人に未来をつくる力がある」と教えられる。様々なNGO活動に参加する中で、異なる文化、価値観の対話こそが平和をつくりだす鍵だと気づく。2001年、立命館大学在学中にNGO「テラ・ルネッサンス」設立。テラ・ルネッサンス理事。

小田 起世和

おだ きよと ● 長崎県出身、祖母をヒバクシャにもつ被爆3世。大学卒業後、デザイン会社勤務を経て独立。2012年より、テラ・ルネッサンスの年次報告書を制作以降、あらゆるデザイン業務に従事。2014年より、テラ・ルネッサンスの広報・ファンディングチームマネージャーとなる。



伝えることの学び

2016年10月、テラ・ルネッサンスは活動を開始して15周年を迎えます。啓発活動において重要な“伝える”ということに注目し、職員の小田を聞き手に創設者の鬼丸から、伝えることの学びについて伺いました。

文／小田起世和　　テープ起こし／北村真帆(インターンシップ)

無いもの探しから、
あるもの探しへ

小田 まず、テラ・ルネッサンスのはじまりについて、教えていただけますか？

鬼丸 大きなキッカケとなつたのは、大学4年生の頃、当時関わっていたNGOの関係でカンボジアへ行ったことでした。地雷撤去現場を訪問したり、地雷被害者の話を聞いて、とても衝撃を受けたんですね。事

前に資料で調べたりしていたんですが、そこには、数字やデータをはるかに超える現場の緊張感や、被害者の方々の苦しみや悲しみがあつた。モヤモヤした気持ちの中で、「この現状をなんとかしたい」って感じたんです。今では、そんな漠然とした想いからテラ・ルネッサンスが始まつたんだと考えています。

小田 カンボジアを訪問後、鬼丸さんはそのような想いを、実際の行動に移していくことになるのですが、まずは、それが講演という方法だった。どうして、そんな方法を選んだのですか？

鬼丸 私は5人兄弟の長男で、家庭は裕福なわけではありませんでした。地雷の問題を解決したいけれど、そのための資金がない。地雷除去の技術も持っていないし、ましてや英語も喋れない。できないことばかりだつたんですね。それでも、できない

る」という博士の言葉に、勇気をもらえた気がして、当時から今でも自分に向き合い、自分だからできることを見つけられるんだと思います。

伝えることの 本当の目的

小田 講演活動をはじめたのは、カンボジアから帰国した2001年からでしたよね。その年、全国各地で90回の講演を実施して

いくことになり、その過程でテラ・ルネッサンスが設立されました。はじめは、10人くらいの小さな報告会からスタートしたと聞いていますが、当時の様子を教えていただけますか？

鬼丸 あのときは、カンボジアの紛争の歴史を描いた、ドキュメンタリー映像を流しました。すると、参加していた中学生の女の子が、その内容の悲惨さに大きな衝撃を受けたようで、途中で退席をされました。そんな光景を目の当たりにして、僕自身もう感じでしょうか。この難しさを、どのように解決していくのかについても教えてほしいのですが、その前に、一つだけ質問させてください。鬼丸さんは、カンボジアの

ことを一つずつ並べていくうちに、最後に残ったものを見つけたんです。それは、「自分にならできること」でした。

お金も技術も語学力もないけれど、この問題を日本人に伝えることなら、できるかもしれないって考えたんですね。当時NGO・NPOの社会活動家の先輩たちが、講演する姿をたくさん見ていたことも、そのように考えられた理由のひとつだと思います。

小田 できないことばかりを見つけてしまうと、途中で考えること自体をやめたくなってしまいそうですが、鬼丸さんはそうならないかったのですか？

鬼丸 確かにそうですよね。僕もまだですが、自分と向き合うことって少しだけ勇気のいることだと思います。

カンボジアを訪問する以前、当時18歳の頃に、スタディツアーでスリランカを訪問しました。そこで、サルボダヤ運動の創始者であり、アジアのノーベル平和賞といわれるマグサイサイ賞を受賞した、社会活動家のアリヤラトネ博士と出会ったんです。博士は優しい眼差しで、僕にこんな言葉を伝えてくれました。

「もし、君が何かをはじめようと思ったときに、まずは知つてもらいたかったんですね。結果はどうであれ、その中学生の女の子にも、伝えるということは成功したと言えるんじゃないですか？」

鬼丸 まさにその通りです。問題を解決するために、まずは知つてもらうということが大前提なんだと思います。ですが、伝えること自体は、本当の意味での目的ではないんです。

小田 どういうことですか？

鬼丸 つまり、事実や問題を知つてもらえた先で、「私もこれを一緒に解決したい！」という気持ちになり、何でもいいから、具体的に行動してもらうこと。これが、伝えたいことの本当の目的なんです。

小田 なるほど。聞き手の心が動いて行動していると。

鬼丸 はい。でも、実際に伝えることの難しさにも直面していたんですね。そんな感じで、ふと思い出したんです。さつきもお話をしたように、僕は当時から、社会活動家の先輩たちの講演をたくさん見ていました。そこでは、単に問題の事実のみを話すのではなく、事実に対しても変化していく、人の姿や想いについて話していたんですね。大切なのは、「共感と感動」だったと、気付きました。二回目の講演からは、その部分を



全国の小・中・高校・大学をはじめ、企業や行政にいたるまで、幅広い層を対象に、職員の鬼丸、小川、栗田を中心として、年間100回以上の講演活動を開催しています。



抽選で10名様に、
サイン入り書籍をプレゼント!
詳しくは、巻末の応募方法をご覧ください!



小田 啓発活動における講演。その中で、伝えることの学びについてお伺いしてきましたが、最後に、これから課題などがあれば教えてください。

鬼丸 インターネットを活用したオンラインの活動が、今後の課題だと考えています。テラ・ルネッサンスは、講演会やイベントなどの現場で、支援者のみなさまと接する機会を大切にしています。ですが、それにおのずと限界がある。そんなとき、例えれば YouTube を活用して、パソコンや

小田 とてもおもしろいですね。それって、さきほど話していたことに繋がっていて、この場合は共振や共鳴といえるのかもしれません。

伝えること、これから課題

これは、人間も同じなんだと思っています。地雷や元子ども兵という壮絶な過去を経験しながら、それでもそこからの一歩を踏み出そうとする人たちのことを、僕は自分事のように感じています。関わる人も取り組む活動も、全部ひつくるめてテラ・ルネッサンスのことが好きなんでしょうね。そんな風に、心が感動して震えている状態が大事。僕らがやってるのは、想いの伝達であって、知識の伝達ではないんです。

小田 とてもおもしろいですね。それって、さきほど話していたことに繋がっていて、この場合は共振や共鳴といえるのかもしれません。

小田 啓発活動における講演。その中で、伝えることの学びについてお伺いしてきましたが、最後に、これから課題などがあれば教えてください。

鬼丸 インターネットを活用したオンラインの活動が、今後の課題だと考えています。テラ・ルネッサンスは、講演会やイベントなどの現場で、支援者のみなさまと接する機会を大切にしています。ですが、それに

スマートフォンで講演の動画を見てもらうようになると、遠方でも活動内容を知つてもらうことができますよね。さらに、その動画をフェイスブックで拡散すると、より多くの方との接点をつくることができる。もう一言だけいうならば、動画を含めた広報物の多言語化も大切です。国際NGOとして活動するうえで、この部分は外せません。

世界平和の実現を目指すとき、活動内容を伝える対象が、我々が直接会える人だけではないのかと考えると、おのずと課題は明瞭かになってくる気がします。

小田 ありがとうございました。

最後にお知らせです。今回のインターネットは、鬼丸さんの著書、『僕が学んだゼロから始める世界の考え方』の、簡約版のような構成になっています。そこで、抽選で10名様に、こちらの本を鬼丸さんのサイン入りでプレゼントします。本著では、ここでお伝えしきれなかつた内容が盛りだくさんなので、たくさんの方に、ご覧いただけたいです。

鬼丸 おおく、最後にしつかり「オファー」してますね(笑)とっても大切です。

小田 プрезентの応募方法は、巻末30ページの『サイン入り書籍・特別プレゼント』をご覧ください。皆様のご応募、お待ちしております!



2015年8月、3年ぶりにウガンダ事務所を訪問した鬼丸。はじめは遠巻きに様子を見ていたが、少しずつその距離を縮めていく。

意識しながら、地雷撤去作業員の中に秘めた熱い想いや、地雷廃絶運動家で有名な、義足のランナー・クリスムーン氏のストーリーなどを、交えて話すようになりました。

自分にできることを精一杯に取り組む彼らの姿勢に、興味のアンテナを向けてもらえたことで、聞き手の皆さんに、地雷の問題をよりよく理解してもらえるようになつたと感じます。

小田 なるほど、確かにそうですね。例えば、私たちが小説や映画などで感動できるのは、それらの登場人物に自分を投影することで、物語を疑似体験したつもりになれることからです。つまり、それって共感しているつてことですよね。

これまでの講演活動で、聞き手の方にその後の行動に移してもらえたことのエピソードがあれば教えてください。

鬼丸 それはもう数多くありました。たとえば、テラ・ルネッサンスを立ち上げたばかりの頃、私の講演会を何度も開催してくださった、「地雷ゼロ宮崎」というNPOの上野さんなんか、まさにそうです。

はじめは、講演会を主催したり話を聴いてもらうことから始まつたんですが、しばらく経つた後で、ご自身で地雷廃絶のためのNPOを設立されました。他にも、不登校だった高校生が講演後に学校に通い始め、今では管理栄養士を目指して大学で勉強し

いることを実践している人にとって、『行動を選択してもらう』ための最後のひと押しが、難しいと感じる人は少なくないのではないかと思います。

鬼丸 それは単純で、きちんと「オファー」をすることが大事だと思うんですね。テラ・ルネッサンスの場合だと、「寄付をしてください」という感じです。ただ、その前提として大事なことがあります。それは、自分が震えてないとダメだということ。

小田 震える?

鬼丸 音叉(おんさ)ってあるじゃないですか、理科の実験で使う。例えば、ある音叉が震えると、空気振動が伝わって、離れた場所にある別の音叉も震えるわけでしょう。

小田 震える?

鬼丸 音叉(おんさ)ってあるじゃないですか、理科の実験で使う。例えば、ある音叉が震えると、空気振動が伝わって、離れた場所にある別の音叉も震えるわけでしょう。

ていうだとか。そういう事例は数え切れなくあります。自分でできることを、まずは小さく始めてみると大事なかも知れません。

心が震えているか

小田 それは嬉しいエピソードですね。少しだけ話が脱線しますけど、最近アドラー心理学の本を読んで印象的だったことがあります。「感情を含め、自分の人生を選択しているのは自分自身である」という、それは一見、当たり前のことだったんですけど、確かにそうだなと。一方で、伝えるということを実践している人にとって、『行動を選択してもらう』ための最後のひと押しが、難しいと感じる人は少なくないのではないかと思います。

鬼丸 それは単純で、きちんと「オファー」をすることが大事だと思うんですね。テラ・ルネッサンスの場合だと、「寄付をしてください」という感じです。ただ、その前提として大事なことがあります。それは、自分が震えてないとダメだということ。

小田 それは嬉しいエピソードですね。少しだけ話が脱線しますけど、最近アドラー心理学の本を読んで印象的だったことがあります。「感情を含め、自分の人生を選択しているのは自分自身である」という、それは一見、当たり前のことだったんですけど、確かにそうだなと。一方で、伝えるということを実践している人にとって、『行動を選択してもらう』ための最後のひと押しが、難しいと感じる人は少なくないのではないかと思います。

鬼丸 それは単純で、きちんと「オファー」をすることが大事だと思うんですね。テラ・ルネッサンスの場合だと、「寄付をしてください」という感じです。ただ、その前提として大事なことがあります。それは、自分が震えてないとダメだということ。

小田 それは嬉しいエピソードですね。少しだけ話が脱線しますけど、最近アドラー心理学の本を読んで印象的だったことがあります。「感情を含め、自分の人生を選択しているのは自分自身である」という、それは一見、当たり前のことだったんですけど、確かにそうだなと。一方で、伝えると



講演会 主催者の声



西脇 憲三さん
トヨタ自動車株式会社
T&A事業部 品質管理室
室長



2015年2月、部内企画として鬼丸さんにご講演いただきました。弊社も然りですが、企業の人材育成は「仕事ができる人を作る」為の知識や手法を学ばせ「技術力」や「問題解決力」などを養いますが、同時に能力発揮の行動力、すなわち「心の力の醸成」が欠かせないと考えていました。

テラ・ルネッサンスさんの活動は、我々の業務に直結せずとも、必ずや部員の心に届き、一步を踏み出す勇気(心の力)を与えてくれると思い、講演を依頼しました。果たして、ご講演はとても



田淵 泰子さん
医療法人万成病院
章がい福祉サービス事業所
機能型事業ショップひまわり
管理者



「すべての人に未来をつくる力がある」「今の自分にできること、小さな一歩を踏み出しが自分を変え、世界を変えていく」。鬼丸昌也さんの著書のシンプルながら真髄を突くメッセージに深い感動を受けた一週間後、奇遇にも岡山県北の津山市で開催された鬼丸さんの講演会で鬼丸さんとの邂逅をいただくことが出来ました。

鬼丸さんとの初対面の日、“岡山から世界を変えるアクションと共に起こしたい”と、岡山での講演会開催を依頼し、快諾を頂きました。テラ・ルネッサンスのキーパーソンである鬼丸さんと小川真吾さん、トシャ・マギーさんの3人をお迎えいたしました。講演会場の岡山国際交流センターには、当初の予定を上回る約200人がご参加下さいました。講演会直後には、交流センター



講演会 参加者の声



後藤 愛美さん
トーマツイノベーション株式会社



守屋 智敬さん
株式会社モリヤコンサルティング 代表取締役

丸さんの話で最も印象に残っているのは、「目の前の行為これが世界を変える」という言葉です。

間は誰しも無力ではない。だからこそ、日々いくら忙しくても、
小さな小さなことであっても、行動し続けることがとても大切だと
感じています。私自身、子どもたちのために何かしたいと思って
いても、日々の仕事が忙しくなるとそのような思いを忘れてしま
がちです。

んな中、テラ・スタイルで苦しい環境でも精一杯前向きに生きている子どもたちの話を聞いたり、それに向かって一生懸命活動されているテラ・ルネッサンスの皆様の姿を見ると、自分も何へ少しでも行動したい、行動しなければという前向きな気持ち勇気が湧いてきます。

にとってテラ・スタイルは、本当に大切なことを思い出させてくれる、そして行動する勇気をくれる、とても素敵な時間です。



京・大阪では、一般参加の可能な活動説明会、『テラ・スタイル』を定期的に開催しています。また、講演会の開催等のご相談も、隨時受け付けております。詳細は、テラ・ルネッサンスのフェイスブックページや、公式サイトのお知らせページでご案内しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

講演会の参加、開催のお問い合わせは、
テラ・ルネッサンスの公式サイトをご覧ください。
[<http://terra-r.jp>]

インターンシップが担う、大切な役割

鈴鹿 はじめに、これまでのインターン生の受け入れ実績を教えてください。

栗田 半年以上、週2日の勤務ができるスタッフが「インターン生」ですが、多くは大学の学部生です。2015年10月までの12年間で102名を受け入れてきました。

81名が卒業して、現在21名が働いています。

鈴鹿 インターン生はどんな業務を担っていますか？

栗田 京都事務局では、受益者と支援者をつなぐ役割を担っています。ご支援のお礼をしたり、季節ごとに、「今、このような活動をしています」といった活動報告をお送りしています。書き損じはがきや古本、古着、古紙、アルミホイールの回収協力を、たくさんの方に協力を呼びかけて行っていますが、これもインターン生が主体で進めています。

鈴鹿 インターン生は、支援の現場と応援してくださる方をつなぐ、大切な役割があるのですね。

栗田 広報面での発信もインターン生が主体となって、活動の発信、またイベントを実施しながら、とても身が引き締まります。ここまで、インターン生の業務や活躍について聞きましたが、テラ・ルネッサンスがインターン生から学んでいることはありますか？

栗田 当会では、半年ごとにインターン生を受け入れています。組織として、同じスタッフだけで動いていると、どうしても考えが凝り固まってしまいます。しかし、インターン生を受け入れて業務を行っている中で、これまで当たり前だと思っていたことが非効率であったり、こんな視点でこういう進め方、伝え方があるなどの気づきがあります。

また、以前はインターン生ができないだろうと思っていた業務が、例えばウェブの広報でインターン生がメインになり、年間を通じて活動を報告・発信する体制が、段々と作られています。それぞれ得意な分野、例えば、語学や映像の編集技術などを活かして、時には苦手な分野に挑戦しながらも、自分らしさを發揮して国際協力を実践している姿から、一人ひとりが、変化しきな力を持つ可能性があることを、毎日学ばせてもらっています。

もちろん、ビジネスマナーなど、細かい部分で教えることはたくさんありますし、業務の責任において上下の関係はあるので

語学など得意とする分野をいかして、協力しながら活動を広げています。

鈴鹿 その他に、インターン生が主体的に関わっている活動はありますか？

栗田 はい。イベントというのは、たくさんの方に当会の取り組みを紹介する場ですが、一方で、イベントを通してインターン生がたくさん仕事を学ぶことができ、人財育成の要素があります。

啓発活動は、その機会が多いほど、自分の言葉で伝えられるようになります。組織内のインターン生へのインプットだけではなく、できるだけ外部へアウトプットする場をつくることを意識しているので、イベントを通じて、インターン生により力がついてきます。また、インターン生がスピーカーとして講演する際は、同世代の大学生、または高校生など主に下の世代が対象になります。職員から伝え方や必要な情報を教えていたり、インターン生の中でノウハウを蓄積したりと、組織としてよりレベルを上げていきたいです。

新たな視点への気づき

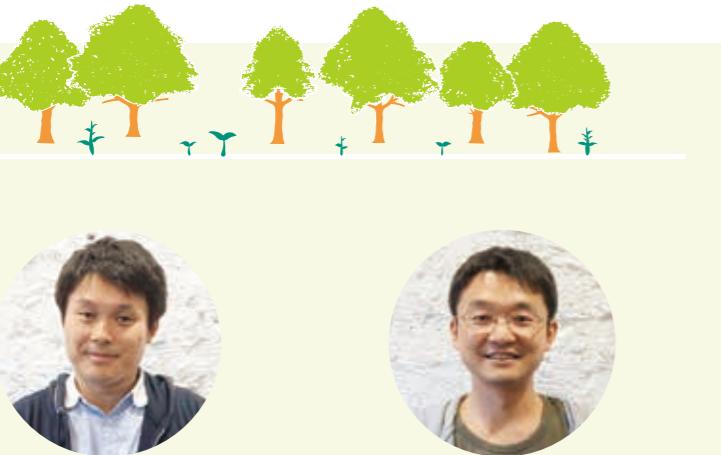
鈴鹿 インターン生が支援者の方々や、テラ・ルネッサンスの活動に興味を持ってくださる方に対して対応や発信ができるいるかどうかは、テラ・ルネッサンスの現場での活動を通じて評価していくべきですか？

栗田 振り返って評価をする機会が少なかつたので、今回、インターン卒業生にアンケートを行い、卒業後の進路や社会貢献活動への参加などについて調べました。卒業生18名から回答があり、現在の進路は、企業・団体等での勤務が14名、大学・大学院への進学が3名、その他が1名です。就職先の業種は、医療・保健・福祉などのサービス業、金融・保険業、NPO、公務員、情報サービス・調査・広告などのサービス業、製造業などです。また江角、吉田そして私も含めて3名が、テラ・ルネッサンス職員になっています。海外では、大学院へ留学、青年海外協力隊への参加、在外の大企館で勤務している卒業生もあります。

人財育成における、12年の成果

鈴鹿 テラ・ルネッサンスでは将来の平和の担い手を育てる「人財育成」を12年間行ってきましたが、ここからは、これまでの事業を評価して、成果や課題を考えていきます。まず、これまでの事業をどう評価していきますか？

栗田 振り返って評価をする機会が少なかつたので、今回、インターン卒業生にアンケートを行い、卒業後の進路や社会貢献活動への参加などについて調べました。卒業生18名から回答があり、現在の進路は、企業・団体等での勤務が14名、大学・大学院への進学が3名、その他が1名です。就職先の業種は、医療・保健・福祉などのサービス業、金融・保険業、NPO、公務員、情報サービス・調査・広告などのサービス業、製造業などです。また江角、吉田そして私も含めて3名が、テラ・ルネッサンス職員になっています。海外では、大学院へ留学、青年海外協力隊への参加、在外の大企館で勤務している卒業生もあります。



栗田 佳典

くりた よしのり ● テラ・ルネッサンスで1年半のインターンシップを経て、2009年4月より、大学卒業と同時に同団体の職員となる。広報や経理業務を担当後、2014年より、啓発・人財育成チームマネージャーとなる。2015年現在、21名のインターンシップ生の受け入れ、イベント等の啓発活動を取りまとめる。

鈴鹿 達二郎

すずかたつじろう ● 大学院卒業後、2007年より、青年海外協力隊として、アフリカのタンザニアで現地NGOに所属。2011年より、テラ・ルネッサンスに勤務し、大槌復興刺し子プロジェクト内で約4年間活動。2015年10月より、京都事務局で勤務。海外事業部のブランジ事業を担当している。



成長することの学び

啓発活動として、講演による平和教育、書き損じはがきなど様々な協働事業の実施、平和の担い手となるインターンシップ生(以下、インターン生)などの人財育成を行っています。啓発・人財育成担当の栗田から、人財育成の学びについて伺いました。

文 / 鈴鹿達二郎

それぞれ、自分の道をしっかりと歩んでいます。自分で道を決定して、自分の未来を切り拓いているインターン生が多い道を進んでいるのですね。国際協力への道を進んでいる卒業生もいて、人財育成の一つの成果だと思います。

鈴鹿 自分の考えを持つて、自分の進みたい道に進んでいるのですね。国際協力への道を進んでいる卒業生もいて、人財育成の一つの成果だと思います。

栗田 そうですね、平和の担い手として活動しているかは、他にも様々な切り口で評価できると思います。海外の勤務だけが平和構築ではなく、どこにいても、たとえ小さな活動でもできると考えています。今回のアンケートで分かったことは18人中16人が、卒業後に何らかの社会貢献活動に参加しています。個人としての活動が13名と多く、例えば、寄付をする、会員になる、ボランティアをする、物品を購入する、イベントへ参加するなどの形です。またその他の2名は、今後、社会貢献活動への参加を考えています。

鈴鹿 実際に行動を起こしている卒業生がいるのですね。インターン活動が生活の中で生きてきているということでしょうか?

栗田 回答のなかで、「自分が変革の主体者であるという意識、自分の行動が何かを変えるきっかけになる」という信念を得ました、「テラルネで学んだ『どんな人にでも世界を変える力がある』という理念は今までこのあたりは、どう考えていましたか?」

栗田 はい、卒業後どのように平和の担い手として育っているかを知りたいですし、一緒に活動もしていきたいです。何より、テラ・ルネッサンスとして一緒に働いた仲間と一緒に繋がっていることはとても嬉しいことです。同じ時期にインターン生になると、ヨコの繋がりはできるのですが、タテの繋がりをこれまでつくれてきませんでした。今回、初のインターネットOB・OG会を12月に行います。中には話をするのが久しぶりなメンバーもいて、再会するのがとても楽しみです。

鈴鹿 なるほど。タテの繋がりもできると楽しみですね。最後に、インターン生の受け入れという、これからの人財育成の可能 性や展望を教えていただけますか?

栗田 私たちは人財育成に「財」という言葉を使っています。私たちが目指している平和な社会を築いていくために、一番大切な資源は何より「人」です。人財育成とい

明確にし、人財育成をきちんと評価することが必要だと考え、準備を進めています。

鈴鹿 そうですね。評価することで、改善すべき点も見つかると思います。人財育成の成果を知りたいということもありますが、卒業生と繋がりをもち、卒業してからも何かテラ・ルネッサンスと一緒に活動できると、シナジーも生まれるのだと思いません。このあたりは、どう考えていますか?

栗田 はい、卒業後どのように平和の担い手として育っているかを知りたいですし、一緒に活動もしていきたいです。何より、

テラ・ルネッサンスとして一緒に働いた仲間と一緒に繋がっていることはとても嬉しいことです。同じ時期にインターン生になると、ヨコの繋がりはできるのですが、タテの繋がりをこれまでつくれてきませんでした。今回、初のインターネットOB・OG会を12月に行います。中には話をするのが久しぶりなメンバーもいて、再会するのがとても楽しみです。

鈴鹿 なるほど。タテの繋がりもできると楽しみですね。最後に、インターン生の受け入れという、これからの人財育成の可能 性や展望を教えていただけますか?

栗田 私たちは人財育成に「財」という言葉を使っています。私たちが目指している平和な社会を築いていくために、一番大切な資源は何より「人」です。人財育成とい

も私の指針となつております。わざわざ寄付などの自分にできる行動を起こすようになります、「できる範囲でボランティアや寄付などに貢献しようと思うようになりました」といった感想があり、テラ・ルネッサンスでの学びを活かして、一人の市民として、社会に貢献したり、平和をつくる活動している卒業生が出てきています。

今後、より多くの卒業生に聞いていく必要がありますが、市民一人ひとりが、少しずつでも確実に、社会貢献の活動に参加して増えることが、平和を構築するために長期的に重要です。また卒業生自身が、平和の担い手として、周囲にどれくらい働きかけているのかも、今後調べていきたいです。

人財育成における 今後の課題

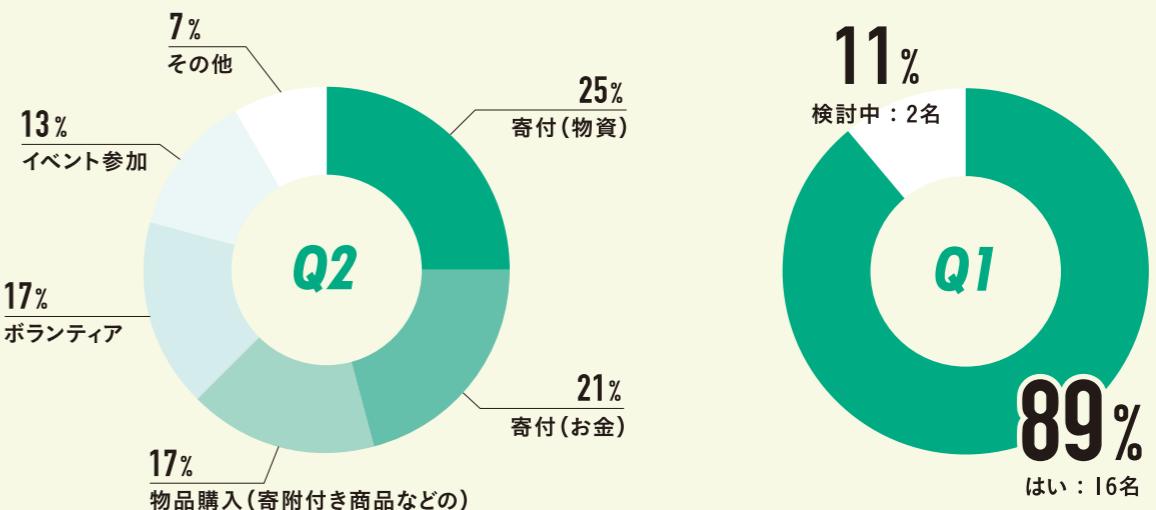
鈴鹿 人財育成には時間がかかると思われます。もちろん、私たち職員が発信していくことも重要ですが、それ以外にも、インターン生を通じて、世界中に活動を広げていき、地雷がない社会、子ども兵がない社会に近づいていくと思っています。育成してあげる、させられるではなく、人として育つていくきっかけを提供していくか、いかに本人自身にもその変化が実感できるか、ご家族や周りの方にも感じていただけるかが、とても重要だと思っています。

そして、平和をつくることは、インターンを卒業しても、どんな場所でも、どんな立場でもできることです。卒業後も、自身の活動の他に、どのような形でも、周囲に平和を発信していく、平和の担い手を育てていきたいです。これからも未来への投資として人財育成を行い、社会人、家庭人、また地球市民として、自ら平和を発信できるパートナーのインターン生を育てていきます。

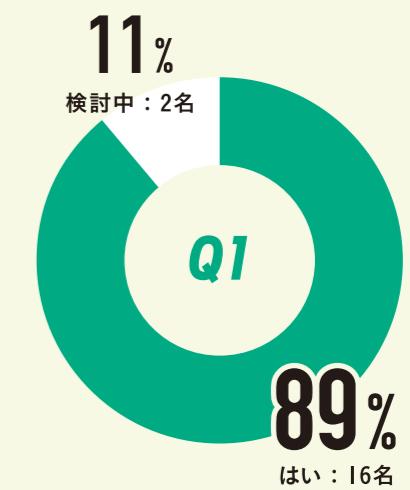
鈴鹿 今回、長期的に社会を変えて行くという観点で、改めて、人財育成が大切だと考えました。そのためには、これから的人財育成を、さらに改善・発展させて平和を構築していきたいと感じました。

Q3 インターンの経験は、今の生活でどのように活きていますか?

- ・異分野、異業種ではありますが、仕事をするうえでの心得（相手は変えられない、変えられるのは自分だけ。自分がする仕事の先にあるものを見ること）は折に触れて思い出します。
- ・社会人としてインターン時代を振り返ると失礼な点も多々あったかもしれません、インターンを経験させていただいたおかげで一度、社会に出て働いてみようと思えました。
- ・何か選択をする瞬間（善悪・決断・消費・活動）は、テラ・ルネッサンスの「ビジョン」「ミッション」「活動理念」を基礎とした判断軸を今でも大切にしています。その上で、自分が導き出した答えを信じて前に進みます。
- ・元々、募金や寄付したお金の行方に疑問を抱いていたが、信頼できるNPOには、支援地のみならず、日本国内で働くスタッフのためにも寄付金を使っていただきたいと思えるようになりました。
- ・頭の中で考えていることを、行動にうつすこと。そうしていれば、時間がかかっても実現すること。このことをインターン中に学び、今の仕事でも大切にしています。

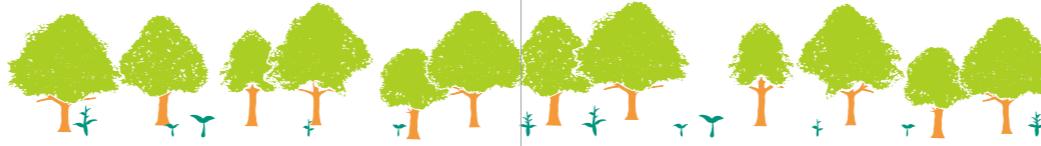


具体的にどのような方法で
活動に参加していますか？（複数回答）



インターン卒業後、
社会貢献活動に参加していますか？

インターンシップを見守る声



杉山 精一さん
神戸市外国语大学
准教授



熱…。

テラ・ルネッサンスには、マグマのような熱があります。私はこの熱に惹かれています。目には見えませんが、テラ・ルネッサンスを包む体温のような何かです。

その熱が本学学生の人生にも大きな影響を与えました。人とのつながりを実感し、自らの生き方を問い合わせ直すことです。インターン経験を通して、彼らは今、新たな「熱」を帯び始めています。

人が成長していくプロセス、学びのプロセスで大切なのは、学ぶための時間ではなく、この熱を帯びた「場所」に一度身を置くことではないか、と私は考えています。

テラ・ルネッサンスのインターン制度は、まさに理想的な「学びの場所」と言えるでしょう。これからも、テラ・ルネッサンスの「熱」を、学生に伝えていきます。

大学一年生時、娘がテラ・ルネッサンスのインターンシップを自ら選んだのは、兄がその仕事に携わっていたからだと思います。彼女が高校二年生の終わり、兄が当時勤務していたタンザニアの日本大使館の元に、一人で行ったことも、大きく影響していると思います。

高校生当時、少し内向的な性格を変えるためもあってか、大学生になると、様々なことにチャレンジしました。

テラ・ルネッサンスにおいても、データ管理や、職員の業務補佐役であるインターンシップ生として、周りの方々と連携する大切さを学んでいき、大学以外でもいい勉強になったことでしょう。親バカの面から見ると、チャレンジを武器によく頑張ったと褒めてあげたいです。

テラ・ルネッサンスが娘の成長を後押ししてくれたと思っております。ありがとうございました。

インターンシップ卒業生の声



樋口 裕城さん
名古屋市立大学経済学部
専任講師



2008年から1年間ほどインターンとしてお世話になった樋口裕城です。インターンを通じ、テラルネの職員がどうやって、そしてどのような思いで仕事をしているのかを学ばせていただきました。私は現在、大学で開発経済学を教えています。開発経済学とは、途上国がなぜ貧しいのか、そしてどうすれば発展するのかを研究する学問です。

近年の研究により少しづつではありますが、途上国の発展のために政策として何をすればよいかということが明らかになってきました。しかし、何をすればよいかということと、それをどのようにするかということは別問題で、後者についての研究はあまり進んでいません。

インターン時に途上国でのプロジェクトに携わさせていただいた経験をもとに、どのように途上国に役立つ政策を実施するのかを考え、少しでも途上国の発展に貢献できる研究ができるよう精進していきたいと思っています。



鈴鹿 静枝さん
インターン生、
鈴鹿純子の保護者



宗盛 千枝さん
独立行政法人
国際協力機構(JICA)
専門嘱託



紛争の影響を受けた人々とのかかわり方について学んだ経験が今の職務に役立っていると考えます。特にウガンダ、ゲルでのフィールド調査において、紛争の影響を受けた人々の個別の事情(家庭環境や経済状況等)に柔軟に対応することの意味、個人の能力やレジリエンスを生かすような支援の仕方等を学んだことが大きな経験でした。

この時期に、紛争の影響を受けた人々と関わる際に軸となる、私なりの価値観が形成されたと言えます。つまり、全員に一律な支援を行うのではなく、異なるバックグラウンドや能力を持つ個人個人に合わせた、一対一の支援に携わりたいと考えるようになりました。

現在の職務内容は途上国を相手とするインフラ円借款の案件形成です。一見テラルネで経験した業務とはほど遠い分野ですが、日々の業務を通して、ますます「相手国固有の事情やバックグラウンドを考慮し、潜在的な能力を伸ばす手助けができるような支援」は分野を限らず重要なことだと実感しています。



Photo by 坂川孝子

待望の新商品を発売！

大槌刺し子 キャンバストートバッグ

定価：3,200円（税込み）

会社のお昼休みや休日にコンビニや公園など、「ちょっとそこまで♪」というときに、持って行きたい。そんなバッグができました。素材はコットン100%のキャンバス地で、しっかりした厚みがあり、ものを少量しか入れない場合でも、形が崩れません。また、A4サイズも入り、マチは10cmと、しっかりとてあり、見た目以上にたっぷり入ります。

刺し子の伝統柄「平三崩し」をシンプル且つモダンにアレンジした、温かみが感じられるデザインが特徴です。「HOME」には故郷や本拠地など、誰もが大切にしているもの、大切にしたくなるもの、という意味が込められています。

[カラー] ナチュラル / ネイビー
 [素材] コットン100%
 [サイズ] 本体 / 約34×26×10 (cm) 持ち手 / 約25×47 (cm)
 [容量] 6L

● 商品のご購入方法は、公式サイトをご覧ください！

<http://tomotsuna.jp/>

大槌刺し子

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

理事長 小川 真吾

理事・国内事業部長 鬼丸 昌也



大槌復興刺し子プロジェクト

2015年度中の独立・別法人化の方針について

昨年10月に開催した「刺し子感謝祭」において、認定NPO法人テラ・ルネッサンスが運営する大槌復興刺し子プロジェクトを、2015年度中に、株式会社として独立・別法人化するという方針を発表いたしました。この方針は、大槌復興刺し子プロジェクトが発足当初から掲げていた、発足10年以内の現地化という目標を達成するために策定したものです。

その後、上記方針に基づいて、独立・別法人化に向けて、準備を進めてまいりました。そうした中で、復興市場から一般市場への移行や、別法人化に関する準備について、当初の想定よりも困難な課題として対応の必要があることを、再認識するにいたりました。

そこで、慎重に検討を加えた結果、大槌復興刺し子プロジェクトを2015年度中に独立・別法人化するという方針を撤回し、従来通り引き続き現地化を目指しながら、認定NPO法人テラ・ルネッサンスの事業として、継続することにいたしました。

また、2015年7月末日付で、大槌復興刺し子プロジェクトマネージャーを担当しておりました内野恵美から、新たに、本会理事の吉田真衣が業務を引継ぎ、プロジェクトの円滑な運営を図っております。

あらためて、大槌復興刺し子プロジェクト初期に掲げた原点に立ち返り、大槌地域の復興に資するプロジェクトとして、発展させるべく、鋭意努力を続けてまいります。

今後も、本プロジェクトに対するご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



人々と出会う旅 航空券
オルタナティブツアーホームページ
MY TICKET

ご相談ください!

マイチケットがオルタナティブツアーハウスを始めたのは1981年。長年の「人々と出会う旅」の経験を生かし、海外旅行のお手伝いをいたします。

国際協力の現場を訪れる「スタディツアー／ワークキャンプ」や大学の「海外体験学習」など、観光旅行とは異なり、旅程管理や危機管理の難しいツアーや研修も経験豊富です。ご相談ください！

マイチケット
個人旅行・海外出張のご相談も
航空券・ホテル・査証・ガイド選択
TEL 06-4869-3444

私達の笑顔が
その笑顔が

武丸武建設株式会社
〒981-3111 宮城県仙台市泉区松森字新田19-3
TEL 022-373-8221 FAX 022-373-8438
<http://www.marutake-kensetsu.co.jp>

『出会いよかったです』から『永いお付き合い』へ。
生き方 共創企業が提案するライフスタイルストア。

humanforum 株式会社ヒューマンフォーラム
〒604-8061 京都市中京区寺町通御前町上ル式部町261ヒューマンフォーラムビル5F
TEL 075 212 8991 FAX 075 254 1126
<http://www.humanforum.co.jp/> <http://www.mumokuteki.com/>

IKEUCHI ORGANIC

IKEUCHI ORGANIC株式会社 愛媛県今治市鶴居平762 tel 0998 31 2255
www.iikeuchi.org

『テラ・ルネッサンス』
を応援しています！

私たちの思いは、
ウガンダの思いでもある。

CRYSTAL COFFEE
UGANDA BUGISHU ELGON COFFEE
<http://www.crystalcoffee.jp/>

比べてわかる！クロカワの確かな技術!!

黒川クリ-ニンク社

本社／福井県坂井市春江町隨店寺20 ☎0120-33-4646
<http://www.kurokawa.jp> E-mail: white@kurokawa.jp

『スマピク』
<http://smapic.jupiter.co.jp/official/>

ジュピターが贈るピクチャーロジックパズルの決定版が、スマートフォンアプリでついに登場！

jupiter
株式会社 ジュピター
〒612-8368 京都市伏見区周防町331番の16
Tel.075-604-0200(代)
<http://www.jupiter.co.jp>

ウガンダ事務所 スタッフ
アティム・クリスティー(BHN 支援担当)

撮影：延岡由規(インターン12期生)

協賛広告へご協力いただき
誠に、ありがとうございます。

株式会社 西井製作所

《営業品目》
自動車ナンバープレート
各種標識、電気部品、複合機、各種塗装品
航空機部品・半導体部品・半導体関連機器・精密治具金型
各種自動機設計・開発・検査

URL: <http://www.hiroshima-ikuma.jp/>

本社・工場
〒736-0055 広島県安芸郡海田町南明神町1番17号 電話 (082)821-0241 FAX (082)821-2494

Mail: nishii@hiroshima-nishii.co.jp URL: <http://www.hiroshima-nishii.co.jp>

Yakult

「健康で美しく。
免疫ライフ
創造パートナー」

水戸ヤクルト販売株式会社 代表取締役社長 内藤 学
〒311-4164 水戸市谷津町1-35 水戸西流通センター内
TEL 029-251-8960(代) FAX 029-254-7276

世界初!モンドセレクション最高金賞受賞
高品質ホエイプロテイン

トップアスリートも絶賛!
スポーツ用プロテインとして世界で初めてモンドセレクション(2015)最高金賞受賞。広島東洋カープの丸佳浩選手や、ドラゴンゲートのプロレスラー、戸澤陽選手も愛飲!

丸佳浩
戸澤陽
ドラゴンゲート
beLEGEND
ビーレジェンド 1kg
ナチュラル(ミルク風味)
2,600円~

ご注文・お問い合わせはお電話またはwebから
料金:一律 通話料64円/代+手数料324円
ご要件に応じて追加料料1万円手数料無料

0120-242-044
ビーレジェンド 検索

株式会社 Real Style 〒635-0061 奈良県大和高田市権現東1-10上田ビル5F [電話受付時間] 平日10時~18時

京都・滋賀の住設機器 管工機材のことなら、私たちにお任せ下さい！

株式会社 ヒトミ
京都府京都市伏見区深草西浦町 8 丁目 133-1・2
TEL: (075)642-4121 HP: <http://www.hitomi-net.jp/index.html>

イノベーションが必要な時代。
人とオフィスの環境を考えませんか？

空間プロデュース - オフィスコンサルティング
リノベーション - 物件の企画立案、運営サポート
コーポレートデザイン - PRツール作成、研修企画

働く環境の総合商社
株式会社 ウエダ 本社
〒600-8103 京都市下京区五条通堀町角塙塚町363 TEL: 075-341-4111

**私たち
『テラ・ルネッサンス』を応援しています!**

中井隆栄経営塾
『幸せな成功者』育成塾
塾長 中井隆栄 & 塾生一同

仕事、お金、人間関係の「悩み」が解決し、次々と夢かかない出す
年収3,000万円から1億円の経営者を続々輩出する日本最高峰の経営者養成講座

中井隆栄経営塾
『幸せな成功者』育成 6ヶ月間ライブコース

<http://www.magicclamp.co.jp/>

あなたの服を送って世界をサポート
フクアサポ
Kurokawa Ltd. × Terra Renaissance

Kurokawa Ltd.

株式会社 Kurokawa
〒676-0805 兵庫県高砂市米田町米田1097
TEL 079-432-7769 FAX 079-431-4509
URL <http://www.kurokawa1953.com>

子どもたちの未来のために

農業事業部 ジエイ農園
農薬・化学肥料・除草剤を使用せず、できる限り自然に沿った方法で、「安全」「安心」「新鮮」「健康」な作物の栽培に挑戦しています。

教育事業部 ジエイ教育セミナー
1993年夏、文教の地・姫路で「公立トップ高校トップ合格」を目標に創立。「生徒に一生懸命」をモットーに、兵庫県下でも有数の難関大学進学率を誇る姫路西高・姫路東高の合格者数17年連続学区No.1、姫路市内の生徒数No.1となっています。

新規事業部 修学荘
教育事業部・農業事業部と連携し、「実感」を重視した教育を提供することをめざして、鳥取県大山山麓に合宿体験施設を開設・運営しています。

株式会社 ジエイ教育システムズ
兵庫県姫路市東延末1-1 住友生命姫路ビル6F TEL 079-288-6070 MAIL systems@js-educe.co.jp WEB <http://www.js-educe.co.jp/>

受賞報告



グローバルフェスタ JAPAN2015 写真展 「みんなで世界をHAPPYに！ しあわせづくりの現場から」

最優秀賞(NGO部門)

受 賞：認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス
撮影担当：栗田佳典（啓発・人財育成チームマネージャー）
撮影地域：ブルンジ共和国ムランビヤ県キガンダ郡
キガンダ準郡カネグワ村
撮影時期：2014年8月撮影

2015年度に開催されたグローバルフェスタ JAPAN2015の写真展で、
116点の応募作品の中から、上記の作品が最優秀賞(NGO部門)を受賞しました。

『国や文化が違っても、恥も先入観も捨てて、
自らが動き、分かり合うこと。そこから国際協力の一歩が始まる』

そんな瞬間をとらえた一枚の写真は、
これまでご支援をいただいた皆様、現場で活動するスタッフ、
自立のために一歩を踏み出す受益者の方々との
関係性を築くことができたおかげで、撮影できたものだと感じています。

今後も、私たちは世界中の協力者とともに、
すべての生命が安心して生活できる社会の実現をめざし、活動を続けてまいります。

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス 理事長 小川 真吾



僕が学んだゼロから始める世界の考え方
鬼丸昌也 サイン入り書籍を10名様へプレゼント！

結晶母
テラルネ Vol.04

2015年12月1日発行

発行責任者：小川真吾
発行：認定 NPO 法人テラ・ルネッサンス
〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉
角塙町 21 番地 jimukinoueda bldg. 403号室
TEL&FAX : 075-741-8786
E-mail : contact@terra-r.jp Web : www.terra-r.jp
Facebook : terra.ngo Twitter : @terra_ngos

デザイン
小田起世和（広報・ファンデイジングチームマネージャー）
表紙デザイン／アシスタント
辻本真貴子（インターン13期生：2015年度）
表紙デザイン／撮影
芦沢博穂（インターン10期生：2012年度）

本書の一部または全てを複写・転載引用する際には、
予めテラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。

編集後記

今回の結晶母は、『答えのない学び』というテーマのもと、それぞれの活動現場の視点で、その本質に迫る内容を目指しました。表紙デザインのモチーフは『粘土』です。様々な要素が混ざり合い、形(=こたえ)を探るプロセスを、学びの象徴としました。答えにも、学びにも、決まった正解ばかりがあるわけではなく、歪であっても、その一瞬一瞬こそが、私たちにとっての、ただひとつの“こたえ”なのだと思います。また、今回の結晶母の発行時期は、冬季募金のキャンペーン月間です。冬季募金へのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。（小田）

贈り物に、大人気！
uganda coffee
ウガンダコーヒー

好評発売中！
詳しくはこちらまで

<https://terra-r.stores.jp>





Terra Renaissance
ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

認定NPO法人テラ・ルネッサンス 公式サイト【 www.terra-r.jp 】 フェイスブック【 [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) 】 ツイッター【 @terra_ngo 】
〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角塙町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室 TEL/FAX : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp